

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和6年3月14日（木曜日）		開会	10:37		会議場所		別海町議会 委員会室3	
				閉会	11:45					
委員の出欠		3 番	高橋 眞結美	出席	6 番	宮越 正人	出席	9 番	小椋 哲也	出席
		10 番	外山 浩司	出席	13 番	中村 忠士	出席			
出席説明員	福祉部	福祉部長		福祉部次長		福祉部次長兼保健センター長		福祉部次長兼町民課長		
		干場みゆき	出席	田村 康行	出席	小川 信明	出席	谷村 将志	欠席	
		福祉課長		介護支援課長		老人保健施設事務長		訪問看護ステーション所長		
		石戸谷 友絵	出席	高橋 勇樹	出席	渡辺 久利	出席	堀 留美	欠席	
		地域包括支援センター長		居宅介護支援事業所長		町民課特命課長		福祉課主幹		
		九里 富恵	欠席	大道 詳子	欠席	上田 健一	出席	澤田 憲一	出席	
		町民課主幹		保健課主幹		福祉課主査		介護支援課主査		
		西田 和弘	欠席	畠澤 みどり	欠席	大森 晴海	出席	天神 幸子	出席	
		介護支援課主査		地域包括支援センター主査		町民課主査		町民課主査		
		松本 静香	欠席	井川 仁	欠席	岩光 理代子	欠席	小野 絵里	欠席	
		町民課主査		保健課主査		保健課主査		保健課主査		
		木幡 友哉	欠席	山崎 さおり	欠席	對馬 恵子	欠席	佐伯 祐司	出席	
		保健課主査		老人保健施設主査		老人保健施設主査		税務課主査		
		成瀬 広子	欠席	中田 幸規	欠席	佐藤 裕美	欠席	伊藤 武史	欠席	
	別海 病院	病院事務長		病院事務課長		病院事務主幹		病院事務課主幹		
		三戸 俊人	出席	棧木 直人	出席	奈良 司	出席	大森 圭介	出席	
委員外の出席							合計	0名		
事務局職員		主幹	入田 浩明				合計	1名		
傍聴者数		一般	0名	報道関係者	0名		合計	0名		

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 10番 外山	10:37 開会
	出席委員5名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日
	【病院所管事務調査】
病院事務長 三戸	挨拶及び概要説明
委員長 10番 外山	議事1 所管事務調査
	(1) 町立別海病院の運営について
病院事務長 三戸	・新型コロナウイルスについて、現在のところ、年末年始等と比較して減少傾向となっておりますが、町内での感染の状況が引き続き見受けられる。 コロナ専用病床及び発熱外来についても、継続して実施しているような状況であり、引き続き、感染防止と感染者が発生した場合の診療体制を維持しますが、コロナ対応については、適宜、縮小していくような方向で日々検討している。 インフルエンザについても、ピーク時と比較して減少しているが、学校等で集団感染みたいな形で学校を閉鎖してるところも見受けられる。 最後に、中島先生、越智先生の退職により、後任の医師の募集を行っているところですが、なかなか常勤医師の確保には至っていない。 常勤医師が減ってしまっているので、この負担軽減のために、現在、最善を尽くすというか、やれることとして、当直、そして夜・日中を含めた 救急の対応のために、民間等の募集も行って、スポットでの対応をしてくださる医師を民間から採用するとともに、大阪医科薬科大学の救急の医師 の方も3月にすでに2名来て、昼間の発熱外来や救急の方を担っていただいている。 関係医療機関を含め、出張医への協力を得ながら、常勤医師の負担を 軽減していく方法を模索しているところ。 また、山内副院長が3月31日付で定年退職を迎えますが、4月以降は会計年度職員として産婦人科外来、老人保健施設すこやか業務等を担っていただく予定。 今後においては、全力を挙げて医師の確保に努めるとともに、当面の間は現行体制で町民の皆様の不自由ない適切な医療サービスを継続して提供できるよう、院長以下対応してまいりますので、御理解をお願いしたい。
委員長 10番 外山	質疑
	・当直だが、今いる医師の負担増にはならないのか。 ・当直はこなしてくれるが、当直明けの方が負担になっている状況。 民間を活用して軽減したいと考えており、院長や外科の山田先生の当直の数は、これまでと比べて月平均で少なくなるようにしている状況。 ・医者が減ることによって、当然、外来の受診者が減ると思うが、それがどのくらい収支に影響あるのか。 2点目は産婦人科はどうなっていくのか。 3点目は、経営強化プランの収支見込は修正するのか。 ・外来数の減少については、経営に当然影響してくるので、経営強化プランについては修正が必須になる。 予測については、現在も日々の現金収入でも落ちているという実感もあるところなので、これを機に最適規模を探りながらということもあるが、他の病院の情報を収集しながら適正な規模での運営をしていく。 ・産婦人科の関係は、病院経営以外の部分で、やはり老健の施設長は置かなければ
病院事務長 三戸	

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		ならないということで、1週間あたりの勤務する時間も決まっているので、非常に産婦人科外来に影響出るところで、今、山内先生、産婦人科外来週に5回午前中になっているところを、これから周知するが、今のところは週3回程度産婦人科外来を開くことで調整をしているところ。
委員	6番 宮越	・大阪医科薬科大学からは、どういう経緯で別海病院にきてくれるのか。
病院事務課長	榎木	・昨年度受け入れていた臨床研修医が大阪医科薬科大学の先生で、そちらの先生がうちの状況を聞いて、院長と話して、定期的な派遣をしていただけるっていう状況にあった。
		令和6年度については、第1、第3、第5の水曜日当直に入ってくるということで、一応1年間計画は立っているんで、固定での当直医はとりあえず確保できたということで、一部ですが安心できる様子かなと思っている。
病院事務長	三戸	・市立枚方病院から長年にわたり、研修医の方いらっしゃるが、この市立枚方病院と大阪医科薬科大学が距離的にも非常に近いところがあって、当然、その大阪医科薬科大学を卒業した先生も市立枚方病院の方で研修を行っており、うちの方にも大学を卒業した方が、研修にも何人かお見えになっている。
		そういった縁で、6、7年前から市立枚方病院以外、大阪医科薬科大学からもその研修の先生は受け入れていた。
委員	6番 宮越	・そのパイプは太くしていけるような感じなのか。
病院事務長	三戸	・普段、大阪では体験できないような条件、かなり医療分野も専門的になっているみたいで、自分の専門以外はなかなか関わる機会っていうのはないみたいで、うちに来ると、手術をやったりとか、小児科を見たりとかもあるんですが、そこで、やっぱり自然も素晴らしいということで、大変気に入ったってこととお帰りになるんですが、やっぱり向こうの医局の関係であるとか、年も若いですから、これから専門医の資格を取るとか、結婚したばかりとか、これから結婚とかっていうのを控えていて、なかなか具体的な話というのは、正直なところ進んだことっていうのはない。
		去年は市立枚方病院の研修担当してる部長先生もお見えになったりしてるので、うちの実情とかもちよっと見ていただいて、お話もしているので、厳しい状態ではあるんですが、こう将来的にもそういったところからも先生が来てくれるようであれば、ありがたいなと。
委員	6番 宮越	・理事者や事務長が医局に訪問しているわけではないのか。
病院事務長	三戸	・理事者には伝えてますし、実際、市立枚方病院の部長先生とは副町長も去年お会いしてますので、理事者も友好都市ということで、枚方病院であるとか大阪医科薬科大学についても、ちょっと近いので行っていただければなと思っていますが、なんせこの状況で申し訳ないが、担当してる我々がちよっとあまり動きが取れてないっていうのがなかなか厳しいところかなという風には思っている。
委員	9番 小椋	・例えば、出張医で来てもらってる人で、東京からフリーランスで来て、別海と釧路に行ってる先生とかもちよっと可能性あるじゃないですか。
		週の大半を道東で過ごしてらっしゃる。
		そういうちよっと可能性がある時に、どうアクションをかけて、どういう道筋で行こうっていうのを、事務方、院長、理事者含めて情報共有しながら方針を立てていくみたいな場っていうのはどのような流れになっているのか。そういう会議みたいのを定期的に持てるのか、それとも不定期なのか、それとも日常のコミュニケーションの中でそういうのをなんとなく決めているのか、その辺りはどうなっているのか。
病院事務長	三戸	・バックボーンを持っている先生、大阪医科薬科大学や枚方病院、フリーランスの先生で札医大を卒業している方は、バックボーンがあるので、理事者に動いてもらう。
		完全に民間レベルでフリーランスの先生っていうのもおられて、やっぱり中には良い先生

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		もられる。そういった先生については、ちょっと初めは当直から入ってもらって、こう長く来てもらうと。次には昼間も来てもらって、色々な業務をやってもらおうような、こうステップアップっていうか、ちょっと誰でもいいっていうわけにもいかないで、お互いの信頼感を作っておかないとなかなかうまく進まないなっていうのが現実なんで、その辺のところも、場合によっては理事者等にもちょっと動いてもらって、話を決めてもらう場面もあるのかなと思う。 今のところは、しかるべきバックボーンのある先生については、なかなか微妙な問題があると思うので、必要な時に理事者に報告した上で、対応をとということを考えている。
委員	9番 小椋	・定例的にそういうのを意識共有するっていうのは、随時、必要に応じてやっていく。 今後の方向性ってことで、今、現在、そういうのを何かこう定期的に理事者と病院の医者不足を解決するための意識共有なり情報共有ってのは行ってはいないっていう状況なんですね。
病院事務長	三戸	・定期的というか、必要に応じて、医局の方でも、個人的に希望してる方とかっていう情報があれば、随時、理事者の方に伝えて、理事者として動ける部分については、院長通じてお願いしている。
委員	13番 中村	・診療所の先生も高齢化されていて、いつまでいてくれるのかということが地域で関心が非常に高いが、後任等はどう考えているのか。 大阪医科薬科大学病院や市立枚方病院との関係が非常に大事で、パイプを太くして、より近いものにしてということはわかるが、そこだけを頼りにするわけにはいかない。 いろいろな機関を使って、情報を収集していると思うが、情報網の広げ方についての考え方について。
病院事務長	三戸	・診療所については、理事者、院長含め、毎年行っているところだが、1つは両診療所とも継続というような形、そして両先生についても長年担っていただいており、地元からの信頼が厚いっていうのは認識している。 今、どのような対応しているかという、確かに高齢になられているので、1年ごとに各先生に個別に何うような形で、ここ何年かは続けているところで、幸いにも新年度についても両先生の方に担っていただけるっていうことは了承していただいている。 もちろん、診療所が地域にとって必要っていうのもありますが、それ以上に両先生の地域での影響力というのがかなり大きいというのも認識してるところ。ただ、今後ということになれば、正直言って、その存続とかっていう問題を、まだ実際その病院内、理事者も含めて、ちょっと協議したことがないので、一概にその部分の問題については、この場ではなんともお話できないが、今の現状が続いて、仮にこう両先生にどうしようもない事情があった場合は、今の段階では、人を探すというような形になるのかなと。 ちょっと継続についての協議とかっていうのを具体的にしたわけじゃないので、この場で私の意見だけで言うべき話ではないと思うが、診療所については、そのような形で、今のところは先生方が可能な限りお願いしたいなと思っている。 医師の確保に向けては、今まで医師の募集ということについては、公的な機関である北海道医療財団や全国自治体病院協議会を通じて常勤の医師が就任したこともあり、当然、そういった団体についても、訪問しておりますし、また、そういうところに登録しての募集は行ってはいるが、なかなかうちの方にフィットするような先生が見つかっていないっていうのが現状。 やはり、その民間から来る方も、その場凌ぎではなく、何回かこう重ねていくうちに、やっぱり信頼関係をお互い築くというのが1番いいのかなと。初め、当直で来て、何年かやって、やっぱり気に入ったんで、病院に勤めてくれるっていう先生がいれば、1番安心できるだろうなっていうのは現場では思ってるところ。どうしても、例えば悪いが、正直、民間であ

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		れなんであれ、いきなり経験もなしに入ってくると、なかなかこうフィットしなかったりとかって いう場面もありました。 そういう面では、1番信頼できるというのが、やっぱり今いる常勤の先生のお知り合いの 方が先生が来てくれると、間違いないだろうなと思っているところで、ちょっと力足らずのと ころはありますが、色々考えながらやってるつもりではある。
委員	13番 中村	・診療所の存続について、来年度は大丈夫だろうけども、それ以降はどうなんだということ が地域でも心配されている。
		そこら辺の考え方っていうか、答えはでないか。
病院事務長	三戸	・可否について、今は何とも言えないが、できる限り存続していきたい。
委員	13番 中村	・理事者の考え方があるんだね。
病院事務長	三戸	・はい。
委員	3番 高橋	・特老の先生はどうなっているのか。
病院事務長	三戸	・山内先生で、継続してもらう予定。
委員長	10番 外山	・他になにかあるか。
委員	一同	・なし
		病院 11:08 終了 休憩
		11:14 再開
委員長	10番 外山	挨拶
		【福祉部所管事務調査】
福祉部長	干場	挨拶及び概要説明
		・3月2日に老人保健施設すこやかで19名がコロナに感染。 入所者で重症化されている方はいない。 4日から12日まで新規受入れ中止し、13日から再開している。 今後も引き続き感染対策を進めていく。
委員長	10番 外山	議事1 所管事務調査
		(1) 保育園の状況について
福祉課長	石戸谷	・本別海へき地保育園について、令和6年度の入園希望者がいないこと、近年の地域 におけるお子様の現状を踏まえ、令和6年度の運営を休止することとした。 再開時期を含む今後の運営については、地域の事情などを踏まえ検討していきたいと 考えている。
福祉課	主査 大森	・資料により説明
委員長	10番 外山	質疑
委員	9番 小椋	・職員の配置状況について、上西春別だが、基準に基づいて設置されているが、会計 年度任用職員の割合が別海に比べて多いが、不都合などはないのか。 上風連が子供に対して職員の数が少ないので、負担的に大丈夫なのか。 職員が2人しかいない園について、休暇や突発的な幼児の時に、他の園にも言える が、職員の連携状況はどうなっているのか。
福祉課長	石戸谷	・会計年度任用職員については、主に昔で言う臨時的任用職員と、嘱託の職員とって いう形で、フルタイムなんですけれど、そういった形で採用されてきた経緯がある。で、臨 時的任用については、主に支援が必要なお子さんの対応や、もしくは育児休業者の代 替といったような対応を担っているというような配置の仕方が多い状況であり、割合が多 いということで、特にそういった支障はないと認識している。 上風連については、パートタイムの会計年度任用職員で対応している。 本別海と西春別については、休暇等の場合には、園長が対応したり、パートタイム

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		の会計年度任用職員で対応している。
委員	9番 小椋	・パートタイムで、適宜、その時の負荷に合わせて割り当ててるっていう、これは割と流動的にというか、年度途中でもこう対応しているのか、年度当初に計画立てて固まっちゃうみたいな感じなのか。
福祉課長	石戸谷	・どこの園でもいいような任用の仕方をしている。
委員	13番 中村	・確認なんですけども、配置基準との関係で、例えば、別海保育園で2歳児16人っていうことになると、おおむね6人に1人の者ということですから、これは3人の先生が配置されるということではないのか。
福祉課長	石戸谷	・委員がおっしゃるとおり。 ただし、園児に登園状況によるので、そこは園長の判断。
委員長	10番 外山	・土曜日の対応は。 給食の対応は。
福祉課長	石戸谷	・園児が少なくても配置基準があるので、基準に基づき配置する。 給食については、事前に土曜日に登園する園児の数を把握し、その辺はお弁当の手配等といった対応。
委員長	10番 外山	・発注先は園に任せているのか。
福祉課長	石戸谷	・園の判断に任せている。
委員	9番 小椋	・パートタイムの募集は順調なのか。 多めにパートが来て欲しいといったことがあった場合、どういう手続きになるのか。
福祉課長	石戸谷	・パートタイムの職員の確保は、ずっと募集をしている状況。 有資格者を採用したい状況もあるが、資格を持たない保育補助者と保育士と両方を年間通じて募集している。 パートの利用計画については、園側がシフトを組む時に、パートさんを調整する。 シフトを組む時に、 インフルエンザ等で緊急的な状況が発生した場合には、園児の登園状況を確認して町内各園の保育士のヘルプでといったことも想定しているが、柔軟性に富んだヘルプ体制の構築は現実難しい状況。
委員長	10番 外山	・パートタイムには年齢制限等の条件は。
福祉課長	石戸谷	・パートタイムの任用については、特に年齢制限等は設けていない。
委員	9番 小椋	・無資格の人を雇う場合は、経験者等を探すのか。
福祉課長	石戸谷	・保育助手という任用の仕方だが、採用したからすぐ保育をするわけではなく、環境整備的なことをしていたり、給食の準備等が主になり、先生達が状況を見ながら子供たちと接触させているような状況。
委員長	10番 外山	・町全体で、特別支援に関わる子供の数と職員の数。
福祉課長	石戸谷	・支援が必要なお子さんは14人で、9人が配置されている。
委員	6番 宮越	・パートタイムの給与水準はどうなっているのか。
福祉課長	石戸谷	・基本的には、総務課で作成している単価による。
委員	3番 高橋	・毎年、保育士を応募しているが、応募状況はどうなのか。
福祉課長	石戸谷	・希望している人数には至っていない。
委員	3番 高橋	・それは毎年なのか。
福祉課長	石戸谷	・昨年、今年についても厳しい状況だった。
福祉部長	干場	・いろんな職種、介護職もそうですけれども、近年、やっぱり人口減少と少子化に伴う必然的な減少数になるのかなと思うんですけども、子供さんの人数は減ってくるんだけど、支援の必要なお子様が相対的に多くなってきていて、そこに対応する職員というの

令和6年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	は、基準値にプラスアルファしなきゃならないという要因もありますので、そこに伴う対応というのがやはり1番重要なと思っていますし、本当に毎年募集をかけておりますが、今の応募状況だけでは、なかなか、待ってるだけでは当然来れないと思いますので、地域協力隊ですとか、職業安定所関係ぐらいまでしか行われていないところもありますので、やはり、全国的な民間事業者さんをお願いするですとか、そういった公募の方法についても、今後、取り入れていかなきゃならないなっていう風には、町全体の人材確保に関して、保育士だけではなく、そのように考えております。		
委員長	10番	外山	・他に質疑あるか。
委員		一同	・なし
福祉部長		干場	・挨拶
委員長	10番	外山	閉会挨拶
			11:45 閉会